

平成26年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰 被表彰実践校・図書館・団体（個人）

《被表彰優秀実践校》

・津市立新町小学校（つしりつしんまちしょうがっこう）

司書教諭や司書、担任が連携し、授業に関連したアニメーション・ブックトークの全クラス実施等、読書活動と学習活動を関連付けた取組を充実させることにより、学習内容にも広がりが出るとともに子どもたちの読書への興味関心が高まっています。

司書による図書館利用指導、全校児童による読書記録カードの取組・保護者ボランティアや民間読み聞かせ団体による読み聞かせ、図書館まつりの充実等、読書活動の推進に取り組み、児童の読書への意欲の向上を図っています。

「ファミリー読書」の冊子配付や親子読書と感想記録の取組、図書館開放（貸出、親子ブックトーク等）、保護者や地域の方との読書機会を充実させ、家庭での読書の充実を図るとともに、本が親子共通の話題となり、家庭での対話増進にもつながっています。

・鈴鹿市立白子小学校（すずかしりつしろこしょうがっこう）

学校図書館教育の推進を学校教育の基本方針に含み、司書教諭と司書教諭を含めた研修推進委員が中心となり、組織的な校内体制が構築されています。研修推進委員会に司書教諭が入ることにより、校内研修の柱に沿った蔵書の構築及び学校図書館運営を可能にしています。

また、秋の読書週間に合わせてファミリー読書を行い、家庭での保護者と子どもが本を介して触れ合い読書の機会を増やすことにより、保護者の意識がたかまるとともに、子どもの家庭における読書活動の推進につながっています。

国語で学んだことを活かして、総合的な学習の時間に、自分の課題に応じて、学校図書館で必要な図書や資料を探し、課題解決に取り組む等、学校図書館を活用した授業づくりを通じ、言語への関心や読書意欲が高まっています。

・三重県立志摩高等学校（みえけんりつしまこうとうがっこう）

各クラスの図書委員が、図書館の本を選書して、各クラスに学級文庫を設置するなどの工夫をして、学校全体で朝の読書活動を続けています。このことにより生徒が読書の楽しみを知ることや言語能力を伸ばすこと等の成果をあげています。

また、図書委員会の生徒が中心となって、図書館便りの発行や時事ニュースの作成、ブックリストの作成、文化部と協働した図書館行事の企画など、生徒が身近に感じる図書館とするための活動を続けて、図書館を活性化しています。

さらに、教員と図書館司書が協働して、主体的な調べ学習の場として図書館を十分に活用した授業実践を進めています。

《被表彰優秀実践図書館》

・菰野町図書館（こものちょうとしょかん）

菰野町図書館は、昭和54年より設置されていた菰野中央公民館図書室の活動を一層充実させるため、平成20年4月に開館しました。

児童開架に、子育てに関する資料のコーナーや絵本の読み聞かせが行える「おはなしルーム」を設置して、親子で親しみ集う場の提供に努めたり、読書離れが懸念される中・高校生を対象として、司書が選定した資料を展示したテーマズコーナーを設置しています。

開館当初から、民話がたり合同会（3団体）による「民話がたり」や読み聞かせボランティアによる、毎月第2・第4土曜日の絵本の読み聞かせや英語による読み聞かせを実施している。また、11月には規模を拡大した「民話まつり」も開催しています。

平成25年度から、町内小学校の学校図書館に図書館司書を派遣し、担当教師や図書館ボランティアに、選書や書誌登録、本の装備・修理等の支援や指導を行っています。

《被表彰優秀実践団体（個人）》

・お話宅配便「すきっぷ」（おはなしたくはいびん「すきっぷ」）

お話宅配便「すきっぷ」は、平成16年から桑名市中央図書館で、対面朗読サービス・音訳図書の作成（絵本・児童図書等）のボランティアを行っていたメンバー有志が、平成22年に立ち上げた団体です。

音訳ボランティア活動で身に付けた朗読技術を生かし、市内の小学校において、朝読の時間、国語の授業、集会等で朗読を行っています。

訪問する小学校では、学校の意向や児童のこころも汲み取った選書を心がけ、先生との意見交換を活発に行うとともに、朗読を聞いた子どもたちが、後からその作品を読書する等、活発で自発的な読書活動への展開に寄与しています。

また、月1回の勉強会を開催し、朗読に必要な表現力などを学び、常に会員相互のレベルアップにも努めています。